

吉川佳佑氏による

探究学習オリエンテーション開催

四月十三・十四日(水・木)の計3時間、2年生を対象に株式会社ガイアックスの吉川佳佑氏を講師に招き探究学習オリエンテーションを開催しました。

オリエンテーションでは起業をテーマに、身の回りにある「困りごと」の見つけ方や捉え方など、様々な視点からものごとについて考える重要性について語っていただきました。



以下、交流後の感想

二年六組 川口 智也

今回のプログラムを通して、よい課題の見つけ方を学ぶことができた。今まで課題を見つけたときは、インターネットで何となく調べたり考え込んだりとなかなかいいものが見つけれなかったことが多かった。自分の興味・関心事からそれに関わる人、その人の困りごとを考えていくと、見つけやすいし、多面的に考えることができるので課題を考える際に有効な手段だなと思った。加えて、新しいアイデアを考えていく際に1から何かを考えていくだけでなく、今あるものを参考にしながらそれらを組み合わせてやっていく方法も大切であると気付くことができた。実際、それにより成功している企業もあるので、そういう考え方も視野に入れて広く考えていくよ

うにしていきたい。

そして、課題を見つけたらその課題は本当に適切であるか考えるすべを学んだ。代替手段の十倍以上の価値を見いださないと課題で解決したとしても使われないという点で納得した。自分自身も新たな解決策があったとしてもコストや効率、その他メリットなど劇的な良い変化がなければおそらく使ったりはしないだろうと思った。だからこそ、そういった価値を十倍以上生み出せるような課題を上記方法も用いながら見つけられるように心がけていきたい。

また、今ある製品(商品、サービス)は世の中の「不」から生まれ、誰かが自身の困りごとを解決しようとして作られたことを知り、そういうものに対する見方が変わった。



二年五組 船木 陽奈子

今回お話を聞き、実際に自分で考えたりして、とても多くのことを学びました。私が一番驚いたのは、新しいサービスは身の回りの困りごとである「不」不満、不快、不便などから生まれているということでした。起業のネタは自分でも見つけられるようなすそばに転がっているかもしれないということがとても面白いと思いました。今回、起業のネタになりやすい4つの良い困りごとを知りました。1つ目は、解決したいと心から強く思っていること。2つ目は、どんな風に困っているのかを詳しく知っていること。3つ目は、弱ければみんなの興味を引くことができずにお金にならないため、困りごととして強いこと。4つ目は、まだあまり知られていないことです。これから今後社会に出たときに何か役に立つことがあるかもしれないので、知識として頭に入れておきたいなと思います。